



Center for Intercultural Dialogue

Key Concepts in Intercultural Dialogue

異文化ダイアログにおいて重要な概念

メディア・エコロジー

Casey Man Kong Lum

ウィリアム・パターソン大学 コミュニケーション学教授
(アメリカ合衆国、ニュージャージー州)

メディア・エコロジーとは？

メディア・エコロジーとは、メディアというものを、コミュニケーションにおける人間の感覚形成の体験を明らかにするための環境としてとらえる学問です。メディア・エコロジー研究者にとってのメディアとは、単に人間に対しての外在的な客体や情報伝達のための媒介物に限定されません。その代わりに彼らは、メディアやコミュニケーションの形態を、人間の世界に対する認知が形成される物理的、感覚的、知覚的、あるいは象徴的な環境または構造としての分析を試みます。理論体系または論理的観点、あるいは知的系統としてのメディア・エコロジーは、生態学（エコロジー）が立ち上がった19世紀後半から、多様な学術の潮流のなかで発展してきたものです。

誰がこの概念を使用するのか？

メディア・エコロジーの分野で影響力をもつ研究者としては、グデス、マンフォード、ハブロック、イニス、オング、マクルーハン、エイゼンシュtein、ケアリー、そしてポストマンらがあげられます。このメディア・エコロジーの諸理論は、メディアを題材とする文化論、教育学、リテラシー研究、歴史学、哲学、民俗学、そしてポピュラー・カルチャー研究などを含むコミュニケーション研究の幅広い分野において、学生および研究者にとって有効です。

異文化ダイアログとの関連性？

メディア・エコロジーというパラダイムは、ひとつの理論的視座として、テクノロジーと文化の象徴的な関係性に着目し、問い合わせを投げかけます。そしてコミュニケーション技術の変化が、いかに人間の感覚形成の体験を変えていくか、あるいはその逆の流れをうながすかに光をあてるのです。メディアとはコミュニケーションを規定する基本構造であり、そこから生じる機会と課題について考察することで、異文化間の対話にのぞむ研究者や実践者は多くの収穫をえられるでしょう。

今後の課題

メディア・エコロジーが異文化間のコミュニケーションと関連づけて語られることは、これまでほとんどありませんでした。しかしこの概念は、特に異文化間のコミュニケーションやダイアログの考察において極めて有効です。その基軸概念のひとつとして、異なるメディアやコミュニケーションの形態がもたらす「相殺性」があります。たとえば文化背景の異なる2人のティーンエイジャーが、(a) 3ヶ月間、完全にウェブ上の環境／(b)同じ期間のホームステイという2つの状況において相互交流や感覚形成を体験する場合、その利点と注意点としてどのような違いが生じるのでしょうか。そして異文化間の対話における研究者の試み、あるいは国際教育における実践者の試みに対して、この相殺性が導きうる結果とは何でしょうか。



参考文献

Lum, C. M. K. (Ed.). (2006). *Perspectives on culture, technology and communication: The media ecology tradition*. Cresskill, NJ: Hampton.

Lum, C. M. K. (2014). Media ecology: Contexts, concepts, and currents. In R. Fortner & M. Fackler (Eds.), *The handbook of media and mass communication theory* (pp. 137-153). Hoboken, NJ: Wiley-Blackwell.

Strate, L. (2006). *Echoes and reflections: On media ecology as a field of study*. Cresskill, NJ: Hampton.

翻訳者：片山 淳